

環境問題への地理学のかかわり

「現代の地理学」第14週

環境問題とは何か (1)

- ▶ **ごみ問題と環境破壊問題**
 - ▶ 自然界→原材料→加工・生産・活動→廃棄物→自然界
 - ▶ ごみ投棄+自然改変→地球上の種の減少・生態系の攪乱
- ▶ **生態系サービスという考え方**
 - ▶ 環境問題は資源問題＝生態系からのめぐみ・サービス
 - ▶ 供給サービス:食料・水・木材・繊維など資源
 - ▶ 調整サービス:気候・洪水・疾病・廃棄物・水質に影響
 - ▶ 文化的サービス:レクリエーション供与
 - ▶ 基盤サービス:栄養循環・土壌形成・光合成
 - ▶ 生態系は人間が破壊するものではなく、人間に**価値**あるサービスを提供するもの
 - ▶ 環境問題＝この価値を低く見すぎている

▶ 2

環境問題とは何か (2)

- ▶ **環境問題の分類と解決策(図14-1)**
 - ▶ 問題の影響範囲の大きさ
 - ▶ 地球レベル←→地域レベル
 - ▶ 問題の新旧
 - ▶ 現代の問題←→古典的問題
 - ▶ 解決策
 - ▶ 技術的解決方法→消費の抑制、循環の発想
 - ▶ 大量生産、大量消費構造→ごみ減量(リデュース)、購入減少・廃棄回避(リフューズ)

▶ 3

環境問題への人文地理学的アプローチ (1)

- ▶ **環境研究、環境問題研究の増加**
 - ▶ 古典的研究＝環境論
 - ▶ 自然が人間社会の生活・生産にどのような影響を与えるか(自然→人間)
 - ▶ 決定論から可能論へ:人間社会が自然を利用・改変(自然←人間)
 - ▶ 近年の研究＝環境問題研究
 - ▶ 人間社会が自然を改変、**その結果として人類が影響を受ける**

▶ 4

環境問題への人文地理学的アプローチ (2)

- ▶ **環境問題研究のアプローチ**
 - ▶ 自動車産業のリサイクル・廃棄過程
 - ▶ 経済地理学的研究＝生産・流通過程の立地説明
 - ▶ 中古車の流通システム、自動車分解整備業の立地などリサイクル・廃棄部門の立地メカニズム説明
 - ▶ **社会地理学的視点**
 - ▶ 環境問題の社会的構築過程とその地域性
 - ▶ 活動する市民・住民運動に着目

▶ 5

環境運動への注目 (1)

- ▶ **環境問題の社会的構築**
 - ▶ 環境問題は社会的に構築される
 - ▶ 「**クレイム**申し立て」を通じて、問題をめぐる状況を研究対象にすべき
 - ▶ クレイムの真偽を問うのではなく、**誰が何をどのような文脈で申し立てたのか**を問うことが重要

▶ 6

環境運動への注目 (2)

- ▶ 問題構築と市民・住民運動
 - ▶ 環境問題は言語行為の積み重ねによって変化
 - ▶ 言語行為の主体＝研究者、評論家、行政機関、企業、政治家、関係住民など
 - ▶ 市民・住民団体の存在
 - ▶ 環境問題に関わる市民・住民運動＝環境運動
 - ▶ 環境運動は展開されている場所によって性格や主張が異なり、その地域での環境問題の構築に異なる影響

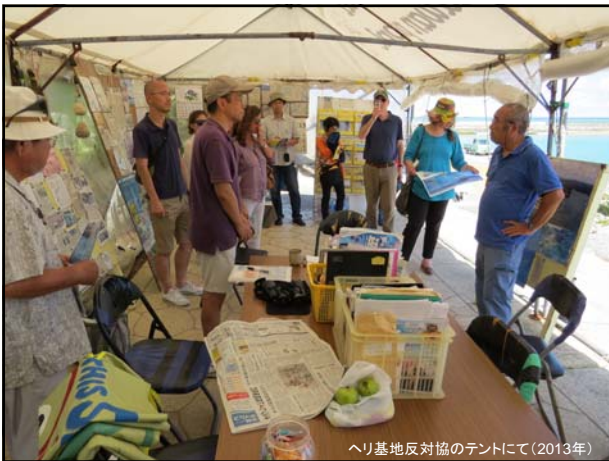
▶ 7

米軍基地移設をめぐる価値観の対立(名護市、1997年)



山城博明『報道カメラマンが見た復帰25年沖縄』沖縄タイムス社、1998年

▶ 8



へり基地反対協のテントにて(2013年)

▶ 11

熊本県の川辺川ダム反対運動



▶ 10

環境運動をとらえる「地域」の視点

- ▶ 受益圏・受苦圏
 - ▶ 公共事業や営利事業が行われる際、経済的利益などを得る受益者の集まる地域＝「受益圏」
 - ▶ 公害などをこうむる被害者の集まる地域＝「受苦圏」
 - ▶ 受益圏や受苦圏の空間的形や分布の仕方が、公共事業をめぐる公害問題の展開過程を大きく規定していることに注意
 - ▶ 沖縄県内の米軍駐留に関わる受益圏と受苦圏
 - ▶ 受益圏＝沖縄への集中的米軍駐留による国土全体の防衛
 - ▶ 受苦圏＝米軍基地が集中する沖縄県

▶ 11

分析の視点 (1)

- ▶ 環境運動の多面的理解
 - ▶ 環境運動がなぜ生じ、何を求めているのか、いかなる背景をもつのか正しく理解すること
 - ▶ 表面的・建前的な主張が過度に強調・報道
 - ▶ 運動が発生した背景やそれを支持する人たちの動機は、表面的な争点とは全く別の文脈でとらえる必要がある場合もある
- ↓
- ただし、環境運動に限らない

▶ 12

分析の視点 (2)

- ▶ 環境運動の地域への影響
 - ▶ 環境運動が地域にどのような影響を与えるのか、地域社会でいかなる役割を果たしているか
 - ▶ 環境団体が与える影響
 - 自然再生の担い手
 - 環境に配慮したライフスタイルを啓発する先導役
 - 新たな環境事業(コミュニティビジネス)の創出
 - ▶ 地域の土地利用や社会活動に影響を与える存在

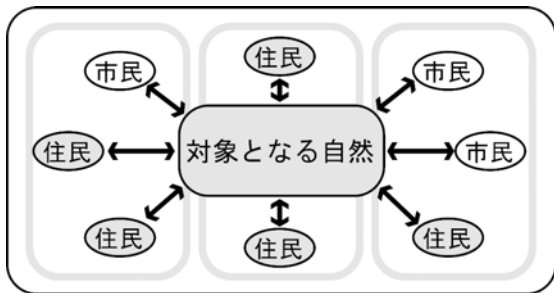
▶ 13

分析の視点 (3)

- ▶ 環境運動の地域性の反映
 - ▶ 環境運動にそれが発生・展開している地域の社会経済特性がどのように反映されているか
 - ▶ 「中心-周辺」構造が環境運動の地域差を生む
 - ▶ それぞれの地域で住民の関わり方に違い→ローカルな地域性
 - ▶ 場所の意味をめぐる争い

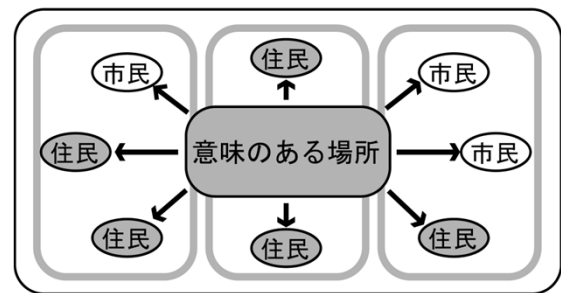
▶ 14

自然と人の社会・経済的属性に応じたかかわり



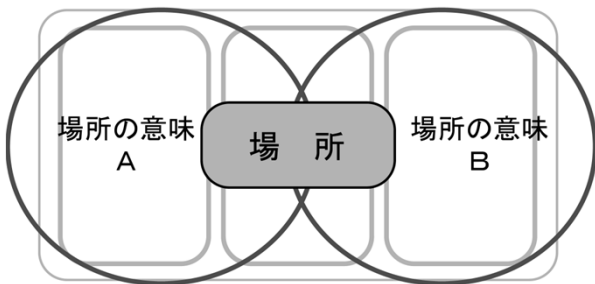
▶ 15

かかわりに応じたさまざまな「場所の意味」



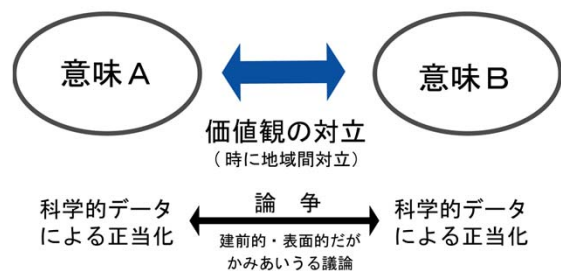
▶ 16

論争を通じて「場所の意味」が収斂する



▶ 17

長期化し泥沼化する環境問題や広い地域を巻き込む大規模開発



▶ 18

米軍基地移設をめぐる価値観の対立（名護市、1997年）

山城博明『報道カメラマンが見た復帰25年沖縄』沖縄タイムス社、1998年

▶ 19

日刊ゲンダイ 2014年7月10日

佐賀新聞 2015年8月11日

▶ 20

環境運動への参加

- ▶ 環境運動とのかかわりを意識しつつ、実践的な研究を行うこと
- ▶ 大阪府下の環境団体
 - ▶ 独立行政法人環境再生保全機構
 - ▶ 環境NGO・NPO総覧オンラインデータベース
 - ▶ 108団体ヒット(2016年1月)

▶ 21

関西自然保護機構

- ▶ 1978年設立
- ▶ 自然保護にかかわる人達や関心をもった人達を幅広く組織して、自然環境保全に関する各分野での研究を結集し、その研究の進歩と自然環境の保護・保全のために努力することをめざして創立。
- ▶ 森林の保全・緑化、自然保護、環境全般
- ▶ 普及啓発、調査研究、政策提言
- ▶ 基礎研究の実施、シンポジウム・講演会・現地見学会等の開催、研究助成金の交付、会誌・連絡紙の発行、自然保護及び自然環境保全に関する提言と助言、国内外の諸団体との連絡・協力、その他
- ▶ 個人会員198名、団体会員5団体

▶ 22

大阪府民環境会議（OPEN）

- ▶ 2003年設立
- ▶ 持続可能な社会を目指して大阪府域の環境NGO/NPOなど市民をネットワーク。相互の交流や情報交換から新しい連携を生み出し市民活動を活性化。
- ▶ 環境全般
- ▶ 普及啓発、政策提言、ネットワーク型活動
- ▶ 国や自治体との協働事業(きんき環境館運営・塚第7-3区共生の森づくり・坂東区緑のカーテン等)、政策提言(大阪府への提案)、ネットワーク事業(公共交通利用拡大・ごみ減量等)
- ▶ 個人会員14名、団体会員18団体

▶ 23

まとめ

- ▶ 環境運動の地理学
 - ▶ ①環境運動の性格を多面的に理解すること
 - ▶ ②環境運動が政策決定や土地利用に与えた影響を読み解く
 - ▶ ③環境運動をさまざまなスケールの「地域」の文脈から検討
 - ▶ ④環境運動の関わりを意識しつつ実践的な研究を行うこと
- ▶ 人間-環境関係という地理学の原点に立ち戻ると同時に環境問題が特定の地域の文脈から発生することを理解し、実践的に取り組む

▶ 24